

事業所名

HER00北吉津

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

1月

25日

法人（事業所）理念		【基本的人権の尊重】 利用者の人間としての尊厳を守る。地域住民・法人職員の人権を尊重する。憲法第13条・第25条を遵守する。 【地域主義】 地域との絆を大切に。地域の一員として、地域住民と共に、誰もが自分らしく安心して暮らせる地域社会を構築する。 【平和主義】 ひとり一人の人権が尊重されている社会は、平和で満ち溢れている。						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決のための練習はもちろんだが、本人の長所や強みに着目した支援を行う。 障害区別や学校種別や年齢などを設けず、分け隔てない支援を行う。 活動を通して多くの体験を積めるようにし、経験値を積める機会を保障する。 地域連携や地域参画を通して、地域と一緒に子どもたちの成長を見守る。 						
営業時間		平日	10時	0分	19時	0分	送迎実施の有無	あり なし
		休日	8時	30分	17時	30分		
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	【健康】 手洗い等の習慣作り、体調不良の確認。栄養、アレルギー、てんかん発作等の医療的課題への対応。薬の内服の支援や習慣作り。食わず嫌いや偏食のある方への食事の支援や食育の提供。 【生活】 身の回りの動作の自立を目指した支援。排泄の自立を目指した支援。通所後のルーティーン理解と自立を目指した支援。身体清潔や爪の長さ等の観察と家族連携。今がいつでどんな時期かを理解し季節を楽しめるための支援。調理や買い物などを通じた日常生活上の動作や習慣の確立。タウンオリエンテーリングやスーパーでの値段比較など、楽しみながら地域や生活上の知識を体得できるための支援。出かけた際の交通ルールなどの理解への支援。						
	運動・感覚	【運動】 大縄飛びなどの集団運動やサーキットトレーニングなどの個別運動、鬼ごっこなど楽しく体を動かす動作やダーツなど体を固定する動作など、様々なテーマ設定で身体の使い方を体得できるようにするための活動の提供と支援。ダンス、リズム遊びなどでのリズム感の養成。ヨガや体操などでの柔軟性の向上を目指した支援。身体障害がある方には歩行練習など、医療と連携の上での生活上のリハビリ動作の促進。「感覚統合」を念頭に置いた、自分の体の理解を深めるための運動時のこえかけ。 【感覚】 ビジョントレーニング等での視覚、音遊びや歌、イントロクイズなどでの聴覚、ラーメン食べ比べなどでの味覚、アロマ体験などでの嗅覚、スライムづくりなどでの触覚、平均台や忍者ごっこや回転ブランコなどでの平衡感覚、氷遊びやプールなどでの温冷覚、タイムアタックや日課の支援などでの時間感覚、100gをぴったり図るゲームなどでの重さの感覚など、活動を通して様々な感覚への刺激づくりと観察。工作などでの手先の器用さの向上の機会づくり。						
	認知・行動	【認知】 時間、物事のルールなど、集団行動に向けてどのような感覚・認識・理解を持っているかを確認。工作などのクオリティなどを通して、長さ、なぞり書き、空間認識、手順の把握、力加減などをどのように理解できているかを観察しアドバイスする。また、視覚・聴覚等の過敏や鈍麻があるかの観察と、配慮の為の環境調整。 【行動】 喜怒哀楽の表現としてどのような行動があるかや、不安の解消のためにどのような手順や空間が必要かを考え、望ましい行動を引き出すために環境を整えていく。自傷・他害・器物破損等がある場合には気持ちの受け止めと共に代替方法の提案や安全の確保を行う。場合に応じて、行動をコントロールできるようになるための、トークンエコノミー法、筋弛緩法、ABA法等の視点を柔軟に組み合わせた練習を実施する。						
	言語 コミュニケーション	【言語】 発語の獲得段階に応じた支援。発語が難しい方にはマカトン法、手話、トークエイド等を組み合わせた支援。声の大きさや言葉遣いの練習。 【コミュニケーション】 本人の気持ちをしっかりと受け止めながら、求めているコミュニケーションを楽しめるような環境作り。発達段階に応じて、五感刺激、愛着形成、遊びの発展、集団での行動の獲得を念頭に置いて一人ひとりに合わせて関わりを深めている。言葉が話せない方には、絵カード、PECS、手話、コミュニケーションボード、O×などを用いた自己表現の機会づくりを行っている。						
	人間関係 社会性	【人間関係】 10名程度の小集団の中でうまくやっていく方法の練習を行う。けんかやトラブルなどは出来るだけその場で解決できるような介入を実施し、その場でSSTを行う「ライブSST」を実施している。高学年になると人間関係の断絶なども起きるが、極端に関係を切ったりせずに時間をかけてでも「話し合っ解決できた」という体験を積めるように関わっている。 【社会性】 大人になった時のことを見越し、グループ内の保育園の園児や高齢者施設の高齢者、関連施設の外国籍の従業員との触れ合いなどを通して、色々な人と上手に関わる力が育つように体験を提供している。挨拶やお店・公的な場での立ち振る舞いなども練習する機会を設ける。						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 預かることでのレスパイト支援。 連絡帳や送迎時の丁寧な申し送りを通しての情報共有。 家族の希望の達成を目指した計画の策定。 				移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 就労への移行の際の担当者会議への参加。 本人の希望がある場合は、放デイを卒業し地域のクラブなどへの移行を見越した支援を実施している。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加や施設のイベントごとへの地域住民の招待。 地域他事業所（保育所、学校、町内会、高齢者施設など）との連携。 地域のボランティアの招致。 				職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 毎日ミーティングで課題の整理を行っている。 月に2回、勉強会を実施し専門性の向上を図っている。 	
主な行事等		固定の行事としてではなく、日々の活動の中に季節感を盛り込んだ内容等を企画している。 【例】・1月 初詣 ・4月 お花見 ・5月 山登り ・7月 七夕・虫取り ・9月 運動会 ・10月 ハロウィンパーティー ・12月 クリスマス会 ・通年 季節の花の工作やガーデニング、旬の食べ物の食事、農業体験や収穫後の調理、「〇〇の日」にちなんだ遊びなど						